

医学教育分野別評価受審の報告

大阪医科大学 前医学部教育センター長
学長補佐

河田 了

本学医学部では本年4月に医学教育分野別評価を受審した。評価機構から6名の審査委員が来学され、実質4日間で審査を行われた。この分野別評価は全国の医学部がここ数年以内にすべてが受審することになっているが、現在までに受審を終えた大学は半数に満たない。分野別評価は7つの分野から成り立っている。「使命と学修成果」、「教育プログラム」、「学生の評価」、「学生」、「教員」、「教育資源」、「プログラム評価」、「統轄及び管理運営」、「継続的改良」の7分野である。それぞれの分野は「基本的水準；must」と質的向上のための水準：should」の項目があり、質問項目は全部で50項目以上に上っている。

本学では今から約5年前に受審準備をスタートさせた。当時の教授会において教授全員でこれに臨むことが決定された。分野ごとに分科会が設置され、各委員長のもと本当に一からのスタートであった。教育センター教員は各分科会の核となってもらい、それぞれに事務職員にも加わってもらった。333頁にわたる報告書（大阪医科大学自己点検評価報告書）が完成したのは平成29年末であったが、その前1年間はまさに膨大な時間を費やした。なにしろ初めての受審であり、教育専門家が本学に多くいるわけではない。時には他学の教育専門家に赴き、あるいは本学での講演会を持ち、各委員長や教育センター教員は、事務職員の協力も得ながら、知識を吸収する努力をおこなった。小生も教育のプロではなかった。これに費やした時間を、専門とする領域の論文を書いていたら何本かけたらどうかと、心の中でいつも思っていた。平成29年後半になると、いよいよ追い込まれ、教員、事務職員ともにパワー全開となり、どうにか年末に報告書を仕上げることができた。

4月の受審当日もオール大阪医大で乗り切り、この6月に仮の審査結果が戻ってきた。基本的水準では36項目中27が適合、9が部分的適合、質的向上のための水準では適合が25、部分的適合が10であり、不適合項目は幸いなかった。これまで受審された大学のなかで比較しても極めて良好な結果であった。まもなく正式な結果報告が届く予定である。

本学は総合大学ではないから、教員や職員間の意志、情報伝達は良好である。医学教育ではしばしば「笛吹けども踊らず」ということを耳にするが、幸い本学には当てはまらない。今回の分野別評価受審にあたって、そのことが大きな推進力になった。教員の臨床、研究、教育という3つの分野を見たとき、どうしても教育分野が疎かになりがちである。このような受審が、改めて教員の大学における教育の立ち位置を明確にしたと思う。また事務の方にとっても、教育に関してより実質的に関わる重要性を認識いただけたと思う。

最後に自己点検評価冊子の作成作業に携わって頂いた多くの教員ならびに事務職員の方々に深謝します。この受審は次回7年後です。

